

第 41 回 オジロワシ・オオワシ渡来状況調査結果

日本野鳥の会福井県 調査担当 堀田 雅貴

- 1 目的 三方五湖に飛来するオジロワシ・オオワシの個体数と渡来期の生態の把握
- 2 調査日時 2025年2月2日(日) 8:00~13:00
- 3 天候 天気:雲 積雪:約0cm 気温:3~10℃ 風:S1~2
- 4 調査方法 菅湖・三方湖・水月湖の湖岸5定点と移動観察2地点で、無線連絡による追跡観察
- 5 調査者(括弧内は観察会兼任)
松村俊幸・柳町邦光・宇野竜司・村上公輝・田川亨・平城常雄・松田信廣・山根眞一
清水遥斗・堀田統大・大槻航・堀田雅貴(小嶋明男・井尻雅巳・武田真澄美)

6 調査結果

- (1) 確認した対象種と個体数
- (2) 確認した対象種以外の猛禽類と個体数
 - ・ミサゴ 6個体(性齢不明)
 - ・オオタカ 3個体(性不明成鳥2・幼鳥1)
 - ・ノスリ 5個体(性齢不明)
 - ・ハヤブサ 1個体(性不明成鳥)



2024年12月14日

トビに追いかけられバランスを崩して菅湖に頭からダイブしたオジロワシ

写真提供: 清水遥人さん

7 今回の調査で観察された鳥類 64種

キジ・コハクチョウ・オオハクチョウ・オカヨシガモ・ヨシガモ・ヒドリガモ・カルガモ・マガモ・オナガガモ・コガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・スズガモ・ホオジロガモ・ミコアイサ・カイツブリ・カンムリカイツブリ・ハジロカイツブリ・キジバト・カワウ・アオサギ・ダイサギ・オオバン・タシギ・イソシギ・カモメ・セグロカモメ・オオセグロカモメ・ミサゴ・トビ・オオタカ・ノスリ・コゲラ・アオゲラ・ハヤブサ・モズ・カケス・ハシボソガラス・ハシブトガラス・ヤマガラ・シジュウカラ・ヒヨドリ・ウグイス・エナガ・メジロ・ミソサザイ・シロハラ・ツグミ・ハチジョウツグミ・ルリビタキ・ジョウビタキ・イソヒヨドリ・スズメ・キセキレイ・セグロセキレイ・タヒバリ・カワラヒワ・ベニマシコ・ウソ・ホオジロ・カシラダカ・ミヤマホオジロ・アオジ・クロジ

8 三方五湖におけるオオワシ及びオジロワシ渡来個体数の動向と今冬の特徴

当地におけるオオワシ及びオジロワシの渡来個体数は2007年度以前までオオワシ1個体・オジロワシ2個体が通常であったが、2008年度以降は安定していない。

オオワシにおいては15年以上確認例がなく、オジロワシは概ね1~2個体となっている。

今回の調査でオジロワシは確認されなかったが、今冬は2024/12/11に小嶋明男氏がオジロワシ成鳥1個体を初認し、2025/1/22まで長尾島の菅湖側での確認例が多くあった。

9 最近の三方五湖におけるオジロワシの渡来個体数

観察期間	性・齢状況	初認～終認
2008.11～2009.2	第5回冬若鳥1 別の1個体は齢不明	2008.12.7～2009.1.31
2009.11～2010.2	成鳥1	2009.11.28～2010.1.17
2010.11～2011.2	成鳥1 (雌) 第3回冬若鳥1 (雄)	2010.12.19～2011.2.20
2011.11～2012.2	第2(3)回冬若鳥1 第4回冬若鳥1	※2012.2.5～2012.2.20 (2週間のみ立寄り)
2012.11～2013.2	越冬確認なし ※渡りの途中に立寄ったと思われる成鳥1	2013.3.3～2013.3.5(3日間)
2013.11～2014.2	成鳥2 (雄・雌)	2014.1.18～2014.2.22
2014.11～2015.2	成鳥2 (雄・雌)	2014.12.28～2015.2.24
2015.11～2016.2	成鳥2 (雄・雌)	2015.12.30～2016.2.28
2016.11～2017.2	成鳥1 (雌) 第2～3回冬若鳥1 (雄)	2016.12.18～2017.2.28
2017.11～2018.2	成鳥1 (雌) (若鳥・雄1)	2017.12.04～2018.2.22 (若・雄 2017.12.14～15)
2018.11～2019.2	成鳥1 (雌)	2018.12.14～2019.2.18
2019.11～2020.2	成鳥1 (雌)	2019.12.6～2020.2.21
2020.11～2021.2	成鳥1 (雌)	2020.12.17～2021.2.16
2021.11～2022.2	成鳥1 (雌)	2022.1.6～2022.2.16
2022.11～2023.2	成鳥1 (雌) 成鳥1 (性不明) 幼鳥1	(雌) 2022.12.18～ (性不明) 2023.2.5～ (幼) 2023.2.6～
2023.11～2024.2	成鳥1 (性不明)	2023.11～2024.2.4
2024.11～2025.2	成鳥1 (性不明)	2024.12.11～2025.1.22

10 まとめ

三方五湖がオオワシ及びオジロワシの渡来地として機能しているのは豊富な餌資源にあると考えられる。しかし、三方五湖におけるオジロワシの渡来個体数の増減は餌資源と相関関係にあるかどうか不明なうえ、北海道以北の繁殖状況や北陸以北の積雪状況に起因している可能性も否定できない。

なお、オジロワシの渡来個体数が少ないことは、琵琶湖のオオワシ1個体、過去の北潟湖のオジロワシ1個体(堀田確認)、過去の九頭竜湖のオジロワシ1個体(堀田確認)からも、妥当である可能性も考えられる。

今回の調査では、久々子湖と日向湖を加えて調査範囲を拡大したが、2025/1/22以降オジロワシは確認されていない。

今後は、食性が類似したミサゴの個体数変動にも着目していきたい。

自然は様々な要因が複雑に絡み合いバランスを保持しながら形成されており、三方五湖もその一つである。「食物連鎖の頂点であるオジロワシの渡来地」という事実が三方五湖の豊かな自然を証明している。

このような自然環境を永続的に保全していくことが求められる。



2025年1月22日

菅湖で最後に確認されたオジロワシ

写真提供：松田信廣さん